



「サワークリーム」はウクライナの定番調味料！

平和を願って 食卓囲む

ウクライナ料理交流会

市国際友好親善協会は1月28日(土)、にぎわいの里ののいち カミーノでウクライナ料理交流会を開催しました。戦災を逃れ日本へ避難してきたウクライナ出身のテレシェンコさん、ミロツカさんと一緒に伝統料理のボルシチを作り、料理を味わいながらウクライナの生活や食文化について聞きました。会場からは「初めて食べた！おいしい！」「サワークリームを家でも作ってみたい」との声が上がり、ボルシチの味に大満足。ウクライナがより身近に感じられた一日になりました。

賢い消費者になろう！

消費生活啓発品 贈呈式

2月7日(火)、市消費生活センターから野々市明倫高校の2、3年生を対象に、消費者トラブルの事例をまとめたリーフレットなどが贈呈されました。成年年齢が18歳に引き下げられたことで、高校在学中に成人を迎え、親の同意なしにさまざまな契約が可能に。代表して啓発品を受け取った生徒会役員には、高校生が特に気を付けたい悪質商法について説明がありました。

消費者トラブルで困ったときは、1人で悩まず市消費生活センター（☎227-6054）に相談してください。



リーフレットと啓発品を受け取った生徒会役員の皆さん。



ぶがく堂の『酒粕最中』(狸々の酒かす使用)も椿まつりで販売予定。

椿まつりだけの限定販売！

狸々の新酒『おりがらみ』の完成を市長へ報告

市と石川県立大学、中村酒造が連携し昨年復刻した野々市の地酒「狸々」。発売以来、多くの食卓や飲食店で親しまれています。そんな狸々の新酒「おりがらみ」が、300本限定で3月18日(土)19日(日)の椿まつりにて販売されます。「おりがらみ」は『おり』を含むため少しにごりがあり、旨みを感じられるお酒です。2月10日(金)には、市観光物産協会の魚住理事長が栗市長へ完成を報告。「狸々はすっきりおいしいと好評。おりがらみもぜひ皆さんに飲んでほしい」と話しました。

楽しみ方は人それぞれ

マナビィフェスタ 美術文化協会展

2月5日(日)～12日(日)、学びの杜ののいち カレードにて「第11回野々市市美術文化協会展」が開催され、日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真の6部門の作品47点が並びました。取材した9日(土)は、平日にもかかわらず来場者がひっきりなしに訪れており、市民の注目の高さがうかがえました。一点一点じっくり眺める人、全体を流れるように鑑賞する人、知り合いの作品を見つけ「これや！」と嬉しそうに見つめる人など、それぞれの楽しみ方があるようでした。



北國新聞社奨励賞に選ばれた野中彩さんの「いのちの煌めき」。

まちの話題 Focus

皆さんの周りの楽しい話題やイベントなどの情報を教えてください。
市民協働課 ☎227-6056

地域を愛し 地域に愛される劇団に

劇団 nono 第13回定期公演

野々市市民劇団「劇団 nono」の第13回定期公演『イベントスクランブル』が、2月11日(土)、12日(日)に文化会館フォルテで上演されました。昨年は感染症の影響で中止となったため、開催は2年ぶり。各日2回の全4回公演を行いました。演出・脚本・映像制作は「演劇ユニット浪漫好-Romance-」代表の高田滉己氏が務めます。あらすじは、今年の干支であるウサギが、元旦や節分、ホワイトデーやエイプリルフールなどのイベントたちと協力して2023年を盛り上げようとするものの思わぬアクシデントに見舞われて……というものです。

11日(土)の初回公演には約50人の観客が来場。上演中は笑い声が起こったり真剣な雰囲気息を飲んだり、出演者らの演技が生み出す世界に会場全体が引き込まれていました。



①ラストは舞台上に出演者全員集合 ②ウサギを演じた劇団nonoの宇佐美さん ③④ ⑤⑥劇団nonoと演劇ユニット-Romance-の皆さんが出演。擬人化したイベントを演じます ⑦終演後は出演者が見送り



消防署員の指揮のもと、迅速に放水が行われました。

守り続けたい郷土の宝

文化財防火デー 火災防ぎょ訓練

1月26日の文化財防火デーを前に、22日(日)林郷八幡神社で火災防ぎょ訓練が行われました。落雷により境内の立ち木が出火したという想定で実施。地元住民が初期消火を行い、重要物品を運び出しました。続いて、上林自警団、市消防団第2分団、野々市消防署が到着。ポンプ車などによる放水を行い延焼拡大を防ぎました。

文化財防火デーは、1949年に起きた法隆寺金堂の火災を機に定められたもので、消火活動の手順を確認し、文化財を守る意識向上の機会としています。

私は何者になりたいだろう？

働く人に学ぶ会

1月24日(火)、布水中学校で「働く人に学ぶ会」が開催され、1年生約260人が仕事の内容ややりがいを学びました。生徒の希望により、講師には、映像クリエイターやスポーツ選手、弁護士など10種の職業人が集まりました。生徒は2つの職種を選んで受講、各方面のプロからさまざまな助言を受け、進路選択について考えました。映像クリエイターの大谷内真郷さんは、ユーチューバーとの違いを説明し、実際に作成した映像を見せながら「伝えること」の大切さを話しました。



講師の話に耳を傾ける布水中学校の生徒たち。